

## 「私の第一声②」

### 【小学生時代の夏休みと宿題との闘い】

ごく最近まで、大阪の夏休みは、7月21日～8月31日でした。登校日を除く40日間という夏休みは、小・中学生の自分にとって、始まる前は永遠に近い長さに、終わってしまえば儂い夢かという短さに感じていました。毎年、今年こそは7月中の11日間で絵日記などを除くすべての宿題を終わらせ、8月は黄金の日々をおくろうと考えます。宿題の1つである「夏休みの過ごし方」の計画書を夏休み初日に仕上げた時、「完璧な計画」に幸せな未来を確信したものです。

いつもはなかなか起きない私も、夏休みは早起きです。当時は地域のラジオ体操全盛期です。朝6時に起床し、妹と地域の公園へ。子ども会の役員さん（地域の同世代の子どもの保護者）が笑顔で待っていて、カードを配ってくれます。ラジオ体操に出席するたび、そのカードに赤や紫っぽい色の○や◎、時には㊦のハンコを押してくれます。出席率がある程度高いと最終日に表紙が昆虫やきれいな花のジャポニカ学習帳というノートをくれます。高学年になると、それほど魅力的ではないのですが、「もらう」ことが少ない時代で、それだけで嬉しかったのを覚えています。

今から考えれば、その役員さんも10歳前後の小学生の父母ですから、30～40代の働き盛りの若者です。私の住んでいた泉北ニュータウンは、当時できたての町で、祖父母世代は少なく若夫婦がほとんど。今から考えれば大人は夏休みでなく、ラジオ体操後仕事に行っていたはずで、忙しい中の地域貢献に、今更ながら感謝の思いがわきます。

ラジオ体操が終われば、友達と遊ぶ約束をして、家に帰り朝食です。「完璧な計画」によれば、午前中は宿題ですが、もちろん、さっきした友達との約束が優先です。宿題は夕方以降テレビをがまんすればできます（とその時は思う）。友達関係がほぼすべての価値の子ども時代、迷うことなく遊びに行きます。大勢が集まれば小学校の校庭や公園で野球（庭球とプラスチックバット）やキックベースボール、ケイ泥（警察と泥棒に分かれてする鬼ごっこ）など。3～5人集まったらビーダン（「天国と地獄」ともいう公園の土面でするビー玉遊び）、べったん

（メンコ）など。2～3人集まったらウルトラマンカードや怪獣消しゴムの交換会、校区内の探検やうどんでザリガニ釣りなど。1人の時は近隣のマーケットにでかけて書店で立ち読みなど。充実した毎日を通します。昼食に1度家に帰りますが、後は門限の18時まで夢中で遊び、18～19時に夕食、夕食中はテレビ禁止で、夕食後がテレビタイム。20時に入浴、21時までに就寝です。低学年のころは寝入るまで父母が絵本や物語を読んでくれ、中学年からは自分で読みながら電気を消さずに寝落ちし、よく怒られました。

私の夏休みの宿題の難敵は「読書感想文」と「自由研究」。私は本をたくさん読むのに、小学校高学年、さらに中学生になっても読書感想文への苦手意識は消えません。なぜ苦手だったのか振り返ってみると、「夢中になってストーリーを追う」ことが楽しいだけで「なぜ面白いのか」を考える経験がなかったからだと思います。それができるようになったのは、高校生でした。そんな中、小5で読んだ当時の課題図書「目が見えなくても」（吉田比砂子著 講談社）は感動のあまり一気に感想文を仕上げることができました。6点点字を開発した盲目のルイ・ブライユの物語。こういう1冊に出会えるのだから、読書感想文は必要だと苦手だった私も感じています。

「自由研究」のことは、次号以降にまた書きます。

「完璧な計画」は達成できたかって？ 7月中は、これから永遠に近く夏休みが続くのとだから慌てない。8月に入っても後1か月もあるから余裕。普段遊ぶ友達はもちろん、8月初旬の登校日に会った友達の言う「宿題なんてやってるはずないやん」という言葉を信じ安心。お盆が過ぎ、高校野球が終わり、クマゼミやミンミンゼミの声に夕方、ツクツクボウシが混ざってくるとそろそろ背中に冷汗が流れ、8月25日、親にバレてようやく宿題を開始、結局毎年、夏休み最終日の夜中を過ぎても宿題は終わらず、明け方に計画を実践しなかった1か月前の自分を激しく責めつつ、朝日に来年の雪辱を誓うのでした。

【不定期コラムNo.34】へつづく

### 第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP